

1 題材名 「枕草子」

2 題材について

(1) 題材観

古典を学習することは、時間を超えて日本人に共通するものの見方・考え方・感じ方を知ることである。それが日本文化や日本語を理解することでもある。本題材は、学習指導要領の「C読むこと」の「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」及び、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ア 伝統的な言語文化に関する事項（イ）古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」を受けて設定した。

「枕草子」は、作者である清少納言の自然と人間に対する鋭い観察を通して、古代女性の感受性や唯美性が示される内容となっている。特に「春はあけぼの」の段には作者の四季に対する鋭い感性が表れている。印象的な風景が簡潔に、しかも目に浮かぶようにいきいきと描写されている。日本特有の四季という普遍的な事柄については、現代を生きる私たちにとっても身近なものであり、実際に見たことはなくとも、頭の中に思い浮かべることが難しくないだろう。ここで改めて現代に生きる中学生に、日本人として日本古来の美意識や感受性を認識させたい。さらに、千年以上変わらず脈々と受け継がれてきた繊細な思いを古典のことばや文章で味わい、その時代に生きた人々の思いに触れ、現代の私たちと違ったものの見方や考え方を知ると共に、現代を生きる私たちと相通じるものも多いことに気づかせたい。

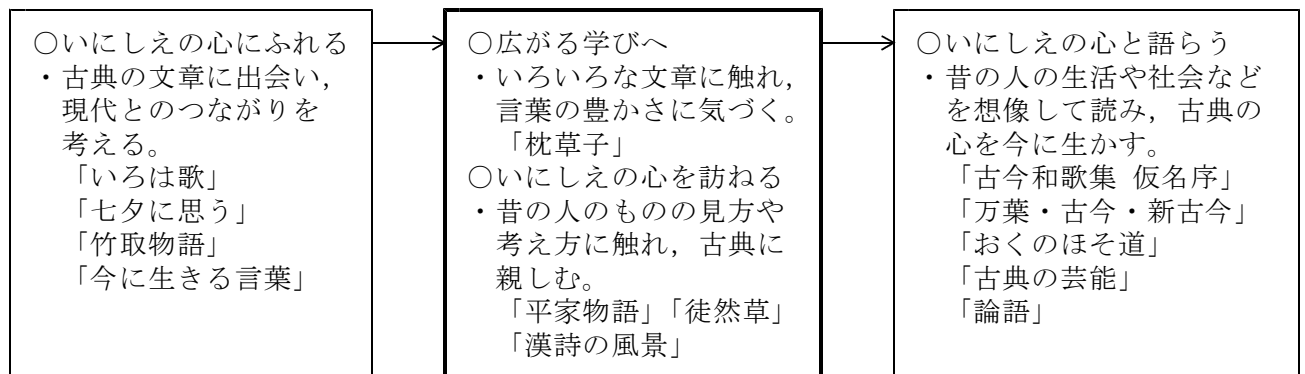
これまで生徒は、一年次に「竹取物語」を通して、古典の文章に出会い、音読や暗誦を中心に古文に読み慣れ、古文独特のリズム感を体感した。また、物語の面白さや登場人物について語り合い、古典の世界に触れる活動の楽しさを味わってきた。本題材でも、作品の特徴を生かしながら朗読をさせ、軽やかで洗練された文体の魅力を味わわせたい。そして、描かれている四季折々の季節感を読み味わい、自分の季節感と比べながら、作者のものの見方や感じ方を捉えさせたい。さらに「枕草子」の書きぶりを参考にして「自分流『枕草子』を書く」という学習活動を取り入れ、生徒にも日々の暮らしの中から季節を感じる景色や自然を見つけ、自分なりの感じ方で捉えさせ、自分が捉えた季節感をイメージ豊かに表現する力を養いたい。また、書いた文章を交流し合うことで、季節感の捉え方を含めたさまざまなものの見方や感じ方に気づくことができ、自分のものの見方や考え方を深めることができると考える。

(2) 指導内容の系統

(中学校1年生)

(中学校2年生)

(中学校3年生)



3 生徒の実態について (35名)

(1) 学級集団の実態

本学級の生徒は落ち着いて授業に臨み、課題にも熱心に取り組む姿勢が見られる。古典の音読や暗誦などにも意欲的に取り組む生徒が多い。また、自分の感じたことや思ったことを口にするにはできる。しかし、自分の考えをまとめ、相手にわかってもらえるよう適切に表現し、発表することは苦手とする生徒が多い。

(2) 題材に関わる実態

調査人数：35名 調査実施日：4月19日

①古典の学習が好きですか。

好き(7名)、どちらかといえば好き(17名)、どちらかといえば嫌い(7名)、嫌い(4名)

好きな理由；昔の人々の気持ちに触れられる，古典の言葉を知るのが楽しい，
暗誦することが好き，リズムよく音読するのが楽しい，百人一首が楽しかった
嫌いな理由；読むのが難しい，言葉の意味がわからない，暗誦が苦手

- ②「竹取物語」の冒頭文を，
リズムよく正しく音読できる（6名），正しく音読できる（19名）
正しく音読できない（10名）
- ③「枕草子」について知っていること。（複数回答）
作者が清少納言（22名），「春はあけぼの」で始まる（4名），
「春夏秋冬」について書いている（2名），知らない（13名）
- ④好きな季節とその理由を書く。
理由を三つ以上挙げて書ける（5名），理由を二つ挙げて書ける（13名），
理由を一つ挙げて書ける（17名）

・考察

古典の学習に関しては，一年次の「竹取物語」が親しみやすいものであったため，比較的抵抗なく学習に入ることができた。また，「竹取物語」の暗誦にも取り組んでいるため，全体的には，古典を読むことに興味を持っている生徒が多い。古典学習が嫌いという生徒は，その理由として歴史的仮名遣いや古典特有の語句への抵抗を挙げている。そこで，古典の基礎的な事項である歴史的仮名遣いや古語の意味の確認は，さまざまな形態での音読を繰り返すことにより進めていきたい。また，古典独特のリズムや美しい言葉の響きを大切にしながら音読させることにより，古典の世界を堪能させたい。

また，現代生活においては季節感が薄れてきたとはいえ，生徒は四季の移り変わりを感じ取る鋭い感性を失ってはいない。そこで「枕草子」の形を借りながら，自然や身の回りの物事を見つめ，自分が捉えた季節感を書かせることにより，自分の思いを書くことが苦手な生徒もイメージ豊かに表現することができるのではないかと考える。自分と作者を比較することにより，作者のものの見方がより捉えやすくなると同時に，自分の生活と古典の世界とのかかわりを考え，より古典に親しめるものと考え。

4 題材の目標

- (1) 古典の文章に関心をもち，進んで音読することができる。（関心・意欲・態度）
(2) 作品に描かれている季節感や作者のものの見方や感じ方を捉えることができる。（読むこと）
(3) 古文特有のリズム感を意識し，作品の特徴を生かしながら朗読することができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
(4) 自分が捉えた季節感を文章に書くことができる。（書くこと）

5 指導計画（4時間扱い 本時は3時間目）

時間	学習内容	支援及び指導上の留意点	評価規準（観点）
1	①「枕草子」を繰り返し朗読する。 ②作者がそれぞれの季節にふさわしい風物として挙げているものを確認する。	○一斉朗読やグループ読み，ペア読みなど，朗読の形態を工夫し，単調にならないよう配慮する。 ○季節感あふれる言葉の使い方や，清少納言独自の美意識に触れさせたい。	○「枕草子」に興味を持ち，意欲的に読もうとしている。 （関心・意欲・態度） ○古文特有の言葉遣いやリズム感をとらえながら，朗読しようとしている。（伝国）
1	③作者の捉えた「春夏秋冬」について季節感を読み取る。 ④作者のものの見方や感じ方をまとめる。	○「春」と「夏」，「秋」と「冬」というように，季節を比較しながら文章内容や表現の特徴について，気づいた点をまとめさせ，作者のものの見方や感じ方を捉えさせたい。	○描かれている四季折々の情景を読み，作者のものの見方や感じ方を捉えている。（読む）
2	⑤自分流「枕草子」を書く。	○季節の風物を書く視点を示し，根拠を挙げながら書くようにさせる。 ○生徒の発表例をモデルにして，選択した季節の書き方を示す。	○「枕草子」の書きぶりを参考にして，自分の季節感を表した文章を書こうとしている。（書く）
本時 1/2	⑥感想を交流し，「枕草子」と現代の季節感について相違点や共通点を考える。	○「枕草子」の捉え方と比べながら，相違点や共通点について話し合わせる。	○交流を通して「枕草子」と現代の季節感について自分の考えを書いている。（読む）

6 本時の指導

(1) 目標

「枕草子」の書きぶりを参考にして、自分の捉えた季節感を表す文章を書くことができる。
(書くこと)

(2) 展開

学習活動と内容	時配 形態	指導上の留意点	評価(方法)
<p>1 「枕草子」第一段を音読する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分流「枕草子」を書こう </div>	<p>5分 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ しっかりと声を出し、リズムを大切にしながら音読するよう確認する。 ○ 暗誦できる生徒は前を見て音読するように声をかけ、暗誦できている生徒を賞賛したい。 	
<p>3 四季の中で、自分自身が第一と感じるそれぞれの季節の風物を書く。 ・「枕草子」第一段の書きぶりを参考にして書く。 体言止め、一文の長さ、対比表現、五感を生かした表現、比喻など。 ・自分の興味ある季節を一つ取り上げ、自分の季節感を表現する。 ・一文で ・風物の状態・状況の説明 ・その風物が季節を代表すると感じた根拠 ・それぞれの季節を百字程度で</p>	<p>15分 個別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに示されている留意点を意識しながら書くように確認する。 ○ 教科書P31にある観点を参考に各生徒のそれぞれの好きなものを表現させる。 ○ 書けない生徒には、生活の中から書く材料が探せるように個別に助言していく。 ○ 「枕草子」の好きな表現(現代語訳)を自分流にアレンジして使うよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 季節の風物を書く視点を理解し、根拠を挙げながら季節感を表した文章が書けたか。 (ワークシート)
<p>4 それぞれが書いた文章をグループ内で読み合い、代表作品を選んで発表する。 ・春は・・・ ・夏は・・・ ・秋は・・・ ・冬は・・・</p>	<p>20分 グループ ↓ 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3～4名のグループで、相互に読み合いながら、着眼点の妙味や表現の豊かさに気づかせ、互いを賞賛させたい。 ○ どういうところが良かったか、どんな感じがしたかという感想の交流を行い、良かったことや思ったこと、感じたことをワークシートに書き加えさせる。 ○ 生徒の発表例をモデルにして、賞賛し、選択した季節の「よいところ」や「状態や状況」の書き方を示し、確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの文章を読み合い、感想をメモすることができたか。 (観察) (ワークシート)
<p>5 発表例を参考にして、自分流「枕草子」を仕上げる。</p>	<p>10分 個別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表例やグループで読み合ったことを自分の表現にも生かすよう助言し、より豊かな表現を考えさせたい。 ○ 「春夏秋冬」全ての季節について書くことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「枕草子」の書きぶりを参考にして自分の捉えた季節感を表した文章を書くことができたか。 (ワークシート)